

参 考

空気神社

朝日町は全国に先がけ「地球に優しい町宣言」や「エコミュージアムの町づくり」を行ってきました。平成二年に空気や自然に感謝するシンボルとして空気神社が住民の力で建立され、毎年世界環境デーの6月5日を「空気の日」に条例化し、毎年「空気まつり」を行っています。



蜜ロウソク

朝日町には日本で初めての蜜ロウソク工房があります。紀元前に人間がはじめて手にした、ミツバチと自然がもたらした奇跡のロウソク。キャンドルナイトの始まりは蜜ロウソクだったのです。養蜂で出してしまう不用な巣を使って製造されています。石油系ではないので二酸化炭素は増やしません。

サンクスキャンドル

1. 17 阪神淡路大震災から 7 年後、お礼のために神戸市民ランナーが山形市を訪れた際に、「感謝」の気持ちをこめて市民の手作りロウソクの灯りで迎えたのがはじまりです。



ツバルとキリバス共和国

地球温暖化による海面上昇で 50 年後には水没してしまう代表的な国です。すでに、主産業のヤシの林が浸食され、職を失った人々が日本の漁業など他国へ職をもとめるようになっていきます。キリバスのトン大統領は「国民の平穏な生活を奪う“環境テロ”」と強く非難。京都議定書に参加しないアメリカやオーストラリアを名指して挙げ「未だ経済水準を保とうとする極めて利己的な国」と批判しました。現在、国をあげて移住計画を進めています。(写真/ 立ち枯れたヤシの林)

星つむぎの歌

もともと土井隆雄宇宙飛行士の応援歌として 2690 人が応募した一行詩をつむいで作られました。平原綾香さんが、テレビ番組（日本テレビ/タッチエコ）で沈みいくキリバス共和国を訪ね、交流した地元の人々と大合唱し多くの人に感動をもたらした歌です。

エコスタ実行委員会

2008 年 6 月。朝日町を愛し、朝日町の自然や文化・遺産を大切にし、朝日町を盛り上げる住民活動で、志を共にする「アットホーム」と「白い紙ひこうき大会実行委員会」が母体となって生まれました。実行委員長 鈴木秀和（アットホーム） 副実行委員長 安藤竜二（白い紙ひこうき大会実行委員会）連絡先）鈴木秀和 090-2602-5319 夜間のみ

100 万人のキャンドルナイト

夏至と冬至の夜、電気を消してロウソクの光でスローな夜を過ごし、環境や平和、家族、世界の人々のことを思うイベント。「文明のもっと大きな可能性を発見するプロセス」と呼びかけ文にあります。